

びふか
三葉台です

こんにちは。

2013年4月号

発行 / 北海道美深町議会 編集 / 議会広報特別委員会

〒098-2252 北海道中川郡美深町字西町18番地 TEL01656-2-1651

印刷 / 有美深印刷



「美深中学校」改修事業始まる … 2P~3P
第1回定例会

予算特別委員会 ……………… 4P~7P

町政のここが聞きたい …… 8P~11P
一般質問に4議員

委員会レポート ……………… 12P~13P

第85号

第1回定例会

美深中学校改修事業始まる

学校給食実施設計を業務委託



南 和博 委員長
審査の経過と結果について、副町長ほか担当部局の出席を求め条例制定の総務住民常任委員会に付託され、審議した。

南 和博 委員長
審査の経過と結果について、副町長ほか担当部局の出席を求めて本条例制定の総務住民常任委員会に付託され、審議を行ない、最終日の本会議で全会一致で原案可決した。

原案可決(全員賛成)

第1回定例会は、3月4日から18日までの15日間開かれ、町側から提出された条例制定・改正・廃止案5件、予算案7件、補正予算案5件他、町民からの請願1件、議会側から発議1件、意見書案3件、承認1件、報告2件について慎重な審議を行ない、最終日の本会議で全会一致で原案可決した。

美深町フレンドバス運行に関する条例の制定

美深町フレンドバス運行に関する条例を図ること」という趣旨・内容に

企画G主幹 平成22年度から3年間で工事費として支払われた額は約6億8000万円。ほとんどが町内の施工業者に支払われ

質問 商工業の振興の観点から、これまでの経済効果とどのような形でこれらが生かされてきたのか。

美深町快適住まいづくりと商工業振興補助金条例の一部改正



本格運行が始まったフレンドバス

原案可決(全員賛成)	関連企業その他に良い影響を及ぼしている。 〔質問者 岩崎議員〕 原案可決(全員賛成)
原案可決(全員賛成)	旭町ふれあいステーション設置及び管理条例の廃止 〔質問者 岩崎議員〕 原案可決(全員賛成)
原案可決(全員賛成)	企画G主幹 名称は、建物全体を旭町ふれあいステーションとして残し、かせる交流スペースの管理は貸出し、南側の待合室スペースの管理は旭町商店会に。
原案可決(全員賛成)	企画G主幹 名称は、建物全体を旭町ふれあいステーションとして残し、かせる交流スペースの管理は貸出し、南側の待合室スペースの管理は旭町商店会に。

第1回定例会



企画G主幹 平成23年度当初は2件だったが、平成24年度は5件の実績があった。今後の自治会活動へつながるような事業展開がなされており、平成25年度も自治会員と協力しこの事業の趣旨に合う取り組

質問 今年のようないふやうな豪雪や燃料費の高騰などで当初予算よりも経費が掛かる状況にどのように対処するのか。

補正の主なもの

- 中学校改修・改築事業
 - 東1号道路北線・9線
道路改良工事
 - 雪寒機械購入
 - 農業水利施設事業
 - びふかアイランド施設
改修工事
 - 教員住宅改築事業など

平成24年度美深町 一般会計補正予算

補正の内容

補正の内容 平成24年度繰り越し事業のうち美深中学校改修工事として平成25年度～26年度の2カ年に係る工事となり、翌年度にまたがつて支出する継続費とするもの。 経費の総額は、7億9480万円。年割額は、平成25年度2億9830万円、平成26年度4億9650万円。

平成25年度美深町 一般会計補正予算

みを期待している。
〔質問者 諸岡議員〕

意見書を 提出

札幌航空交通管制部の存続 ・充実を求める意見書

道民の安全安心な航空交通を確保するためには札幌航空交通管制部の存続・充実こそが必要であり、下記の事項について実現するよう要望する。

1、北海道では航空行政の
枠組みを堅持し札幌航空交
通管制部を存続すること。

2、広大な北海道の航空行政を充実するため国の出先機関である札幌航空交通管制部を充実すること。

平成25年度地方財政対策に関する意見書

自治体財政の確保と地方分権の確立のため政府に次の事項を強く要請する

1、地方交付税は地方の固有財源でありこれを減額しないこと。また地方交付税を減額し使途に制限のある財政措置の計上については自治体の自由裁量権を著しく制限することから行わないこと。

2、地方財政制度は行政需要に基づき財源保障を行うことが基本であり中立かつ客観的な地方財政計画、地方交付税の算定に改めること。

3、地方公務員の給与決定は自治体が自主的に条例により決定することが原則であり、国が臨時特例法で定める給与削減を自治体に強要しないこと

TPP(環太平洋連携協定) 交渉参加断固阻止に関する 意見書

TPP交渉参加断固阻止
について下記の通り要請する。

1、ＴＰＰ交渉への不参加
ＴＰＰは1次産業のみならず医療、公共事業、金融、食の安全、雇用などさまざまな分野に影響が及ぶ国益を損なう極めて重大な問題であり到底国民の合意を得られる問題ではないことから政府は事前協議を含めた一切のＴＰＰ交渉参加に向けた取組みを断念すること。

2、多様な農業の共存を明確に位置づけた貿易ルールの確立

我が国の貿易政策の基本として多様な農業の共存、林業水産資源の持続的利用が可能となるルールの確立を明確に位置付けこれに基づき重要品目については必要な措置を維持すること。

段階では認識しているものと思う。

に対しても一定程度の設計変更の対応をするよう、国交省の指導がある。

様に対応をしなければならないと考えている。

云委員會秘書處行動算子予



積極予算を審査

予算特別委員会(南
され、平成25年度美濃
3月12日～14日の3日

和博委員長)は、議長を除く10議員で構成
町一般会計並びに6特別会計予算について
間審査を行った。

宅配サービスの仕組みは

町長交際費の 公開は

についても協力隊員を活用しながら発信をしていきたい。

料を支払い自宅まで
運んでもらう。

議場音響施設更新の内容は

《議會費》

地域おこし協力隊
5名の役割は

企画係長 本人が店

慶弔が大
部分なので、積極的

質問 議場音響設備の賃借は、工事費も含めて5年リースとすることであり、5年をかけて買うとい

質問 地域おこし協力隊員は今年4名増加したということだが、どのようなことが期待できるのか。

の会計を済ませたものをお100円の宅配

《民生費》

リース期間中の機器の不具合や保守点検はどうなるのか。

総務係長 今年度の
増加については、宅
配事業、観光の案内
業務、チヨウザメの
飼育関係、地域スポー
ツの支援を考えてい
る。

型居宅介護事業所の
具体的な内容は。



地域おこし協力隊で期待されるチョウザメ飼育

予算特別委員会



環境生活係長 本町の処分場は、平成28年度満了見込みで、名寄地区広域最終処分場施設が開始する平成30年度までの間、現処分場のかさ上げで延命を図る調査を委託するもの。

質問 雇用創出事業のスキ－景観整備で除虫菊の植栽を進めているが、ヤナギランなど他の植物も検討してはどうか。

総務係長 6月中旬から7月上旬までの30日を予定し、山菜採りによる遭難事故防止に努める。

農業G主幹 ふるさと秋祭りを中心に地元商品の販売を行っており、販路拡大推進協議会でも情報交換をしていく。

Aコープ閉店後市街地区の住民が地元

イサービスが一日15名、ショートステイ9名の利用が可能となる。道の補助事業を活用して6月以降に施設整備に入る予定。

シルバー人材センターへの補助増額

質問 シルバー人材センター補助増の要因として、受注減があるが、どういうことか。

5名、ショートステイ9名の利用が可能となる。道の補助事業を活用して6月以降に施設整備に入る予定。

福祉係長 従来の事業の中での就業が、労働派遣法の適用を受けることとなり、受注できなくなつたため。

ほっとプラザ☆スマイルの管理の工夫

質問 ほっとプラザ☆スマイルの管理費のうち電気代の占める割合が高いが、太陽光発電を供用する考えは。

保健福祉G主幹 安な深夜電力を利用した蓄熱方式を採用しており、現時点では設置の考えはない。なので、節電をお願いし、1年間は経過を見ていきたい。

質問 有害鳥獣駆除事業だが、先ごろ和寒町、剣淵町は共同で工ゾシカ焼却施設をつくったが、本町は埋め立て処分で押し通すのか。

《衛生費》

埋め立て処分場のかさ上げは

質問 埋め立て処分場のかさ上げ調査の必要性は何故か。

生活環境G主幹 本町の埋め立て処分場の期限が迫っている中で、早急に焼却を含めた処分の方向性を出していきたい。

《労働費》

菊丘の景観整備の植栽は

質問 雇用創出事業のスキ－景観整備

教育長 「菊丘」の地名に由來したキク科の植物を中心と考えているが、貴重な意見として他の植物も検討したい。



《農林産業費》

農産物の販路拡大は

質問 農畜産物販路拡大PR事業は、従来の町外への販路拡大手法に加え、常時町内で手に入るような仕組みづくりが必要ではないか。

《消防費》

質問 新たな加須美峠の巡回パトロールはどんな内容か。

質問 加須美峰の巡視は

予算特別委員会

品を購入し
にくい状況
にあり、関
係者と相談
検討してい
く。

安心安全
の美深農
業に支援
策は

質問
安心
安全の農産
物を提供して
いくこ
とが美深農業に
とつ
て重要だと考
える。

環境保全型農業に
ついては支援を増や
すべきでは。



トマトジュース「太陽の水」



くりかぼちゃ



やまべ製品



手撰豆



羊乳製品

町内にも常設の売り場がほしい
美深町の特産品

《土木費》

除雪体制への
影響は

質問 グレーダー更
新申請を見送った経
緯は。

また次年度の作業
に支障は出ないのか。



オーバーホールで延命

を図ることとした。

駅前通りの排雪に
工夫を

質問 駅前通り（道
道美深停車場線）を
町道と同じ排雪体制
にできないか。

《教育費》

食育の考え方

農業G主幹 社会が
そういう方向に向かつ
ていることは関係機
関、生産者も認識し
ている。

商工観光係長 地元
で小学生のモニター
ツアーはどのような
規模になるのか。

総務課長 降雪によ
り工事が中断してい
る。雪解け後スムーズ
に工事が再開される
ようお願いしている。

施設G主幹 国の排
ガス規制でグレーダー
自体の生産が見込め
ず、25年度は雪寒機
械の受付をしない状
況のため、来年度以
降の除雪作業に影響
を及ぼさないようオー
バーホールして延命

質問 教育行政執行
方針に「学校教育の
基礎である知育・德
育・体育と、生きる
力を育む」とあるが、
なぜ食育の部分が抜

教育長 中学校に建
設できるよう予算化
し説明をしてきた。
最終的には議会の
議決が必要。

産業施設課長 経費
面からも道が対応す
るのが基本だが、町
としても排雪の要望
は伝えている。
今後も要望として
伝え続けていく。

給食センター
建設地は

教育長 知・徳・体
という3つの基本を
掲げているが、食育
の部分は、今の時代
大切なことであり食
育はその中に含まれ
ていると考える。

けたのか。

予算特別委員会

総括質疑

質問 新エネルギーへの対応と、取り組みは。(雪の問題、克雪から利雪へ)

町長 新エネルギーは、時代にあった身の丈のエネルギー対策をしていかなければならぬ。利雪については、今後の課題である。

質問 厚生病院に約1億6千万円の助成金を出しているが、その金額に見合う医療が町民に対して伝わっているのか?町はもっと町民にPRすべきではないか。高齢者が安心して暮らしていく医療を今後どのように進めていくのか。

町長 厚生病院には赤字解消、医師確保の努力をしてもらっている。1億6千万円出しているが、特別交付税の措置もあるので実質3千万円ほどの負担になっている。経営方針は、厚生連本部の考え方である。

質問 役場職員の給与が特別高いとは言わないが、地域で考える必要もあるのではないか。各種委員の報酬は職員給与と対比して決めているのか。

町長 職員給与について、地域賃金とは全道レベルの地域のことであり、美深が特別高い賃金だとは思っていない。各種委員の報酬は他町村の委員報酬のレベルとバランスを取りながら決めているが、改定の時期かもしれない。

質問 学校給食について、27年度実施の方向で決まっているが、住民の理解は得られているのか。

町長 利用者の声にどう応えるかが責務であり、請願や要望があがってきているものについては最大限努力している。

教育長 専門家の意見は聞いていないが実施している市町村等の状況については調べている。

教育長 美深高校は事業の補助が増額になつた理由は。高等養護学校は不足している活動費と地域の学校として町民、保護者にPRしていく経費を支援するもの。

学校教育係長 現在2名、新年度についても同人数を予定。バスの運行には美深ハイヤーに委託し恩根内方面の楠・清水線を延長して、1回の運行に、793円の委託料。

質問 文化ホール自業の中身は質問に答えておきます。事業として送迎バスの運行やチケット販売委託など新たな取り組みがあるがどうな物のか。

学校教育係長 今回2戸の水洗化を予定しているが、地域の要望等もあり、引き続き行っていきたい。

質問 山村留学の住宅改修工事で残された3戸の取り扱いは。



基金でスポーツ振興

教育G主幹 全道大会、全国大会等の実績から、毎年30万円積み立てたい。管理団体は美深スポーツクラブを予定し、運営委員会を設置して事業を推進したい。

子どもスポーツ来基金は

質問 今年度予算化した美深町子どもスポーツ未来基金300万円の中身は。

ら給食センターの立地場所について専門家の意見を集約したのか。

事業の補助が増額になつた理由は。

名の生徒が通学しているのか。また、バスはどこで運行しその経費は。

文化ホール自主事業の中身はを予定。

ネットでのチケット予約と販売までを考えている。

一般質問



岩崎泰好議員

①給食をめぐる経過と町民への情報公開と広聴のあり方・進め方、将来像を改めて問う
②C.O.M.100郷土資料室のあり方と博物館としての将来像について

② COM100郷土資料室のあり方と博物館としての将来像について

教育長 学校給食は長年の懸案であり、近年、実施の動きの声が高まってきたことを受け、教育委員会として考え方を整理する時期にきていた。という認識。

平成23年6月には町民アンケートを実施、中学校の改築と併せて検討する場を設置し説明をしてきた。

昨年の3月に、検討委員会より「町民に対する過度の負担を招かない」「効率

質問 学校給食実施に向けての経過の中で、学校給食実施の意義や具体的な内容について、情報公開と町民への十分な説明と住民意見の聴取がなされたのか。

質問 每年、給食事業には3100万円ほどの経費がかかる。というが、給食実施に「新たな財源負担を町民に求めない」という見解について、将来にわたり禍根を残す結果につながつていかないのか、財政上の考えは。

的で経済的な進め方を」と賛成をいただいた。

質問 COM100
郷土資料室の現状や運営管理のあり方と博物館としての将来像。
利用状況が、平成23年には1767人（平成14年対比で38%）の現状。
原因の分析と見解、資料の収集・保管・展示のサイクルや博物館資料の調査研究がどのように適切に行われているのか、歴史を継承する大切な施設として、名

問 郷土資料室の充実は

称の整理、博物館の登録申請、学芸員の配置、町民や郷土研究会などとの関わりなど運営管理のあり方の大きな見直しが必要な時期にきていくのではないか。況。

教育長 平成10年に開館して以来、毎年数字は少しずつ下がってきてているという状況。

展示等は、平成10年に現施設、平成11年には西里の伝承遊

するところだが、現実問題として全体の職員体制の問題もあり大きな課題。現組織の中で、できる限りの体制を一段階では整えている。という認識を持つている。

学館を開館。再整備を2回、展示物や収蔵品の整理を行ってきた。収蔵品の定期的な展示を、昨年は2件COM100のギャラリーなどで開催。現在専任の職員は置いておらず、社会教育で兼務。博物館の機能として専任の職員や学芸員等の配置は理想と

問 納入の実施、情報提供は

答 広報誌などで町民に

今決断をして進めることが必要であり、将来につながるものであると確信。



管理運営の見直しが求め
られる郷土資料室



南 和 博 議員

一般質問

- ①新年度における美深農業の課題に向けた対策について
- ②新年度における老人福祉対策について
- ③地域情報通信網の現状と課題について

質問 美深農業の課題である担い手対策は新規就農者に対し町としても種々の支援をしているが、一方農家子弟の後継者対策は充分とはいえない。担い手・後継者を重点化した対策が必要と考える。

基本的に、農家の子弟も新規就農者も担い手として同じ扱いであるべきだが、農家子弟には新規就農条例や国の担い手対策を受ける場合様々な制約がある。

地元農家子弟は農業を担うだけでなく、地域を守る観点でいければ別段の対策があつて良いのではないか。

この際、担い手・新規就農・後継者を大きくなくくりとして

子供も新規就農者も担い手として同じ扱いであるべきだが、農家子弟には新規就農条例や国の担い手対策を受ける場合様々な制約がある。

子供も新規就農者も担い手として同じ扱いであるべきだが、農家子弟には新規就農条例や国の担い手対策を受ける場合様々な制約がある。

問

後継者対策の充実を

答

対策の機運づくりを

基金創設等で町独自の総合的な担い手・後継者対策を講ずるべきではないか。

ただ、条例、支援策も古くなってきている部分があり、25年度の初めとして総体的な見直しを担当してほしいと思う。

町長 国の制度、町の条例の中でも少し農家子弟に対する課題があるとみている。ただ、商工、林業すべてが後継者不足になつてしまっているのも事実。



担い手支援の充実を

質問 わが町も今後団塊世代が高齢者となり、老人福祉施設の需要が高まる可能性があるが、施設整備には限界があり居宅介護が増加傾向にある。

その意味で認知症の予防対策はこれまでの対策より、一步踏み込んだ取り組みが必要。

また、福祉・介護にかかる人材確保についても充実強化すべきではないのか。

町長 わが町も年々要支援・要介護認定者が増えており、予防対策の重要性を認識し生活習慣病対策や認知症を理解してもらう講演会等を開催している。

問

一歩進んだ対策を

答

充実に向けて取り組む

催している。

人材確保については「美深町保健師等づく看護師、准看護師、保健師、介護福祉師志望者の就学支

援、さらに社会福祉協議会が実施しているホームページヘルパーの資格取得の経費負担をしており、要望があるなら検討して充実していきたい。

訪問介護等についても新たに民間事業者が実施の計画があると聞いている。

また、厚生病院では、新たな段階に入ってきたところから講演会等を開催している。

一般質問



諸岡 勇 議員

- ①6次産業の振興策について
- ②林業振興策について

町長 特区は、現在商工青年部の製品化の際に農業者も案内したが参加が無く、その機運にない状況。6次産業への取り組みは、平成20年に仁宇布で羊乳チーズ

の実績があるが、産業定着まで更に進めるべきであり、今後の支援策は。

③チヨウザメのコラーゲン採取による医療用製品開発に取組む報道があるが、生産体制、研究など具体的な進め方は。



イベント販売でPR活動

町長 美深小学校でドングリの育苗・ミズナラ植樹で試験的に活用したが、時間

とお金が掛かり国補助事業もなく今まで難しい。住民ボランティアでの間伐、枝打ちは高度な技術と危険が伴うので、望みの森での森林浴、函岳ウォーキングの集い、森林教育の意識高揚を図っていきたい。広葉樹は成長が遅く食害などで育てるのが大変であり、その割合は、森林全体の3%、町有林の6%程度。旧天木の山林譲渡で100haを超える町有林があり、積極的に造林事業推進を図りたい。シマフクロウは生息していた経緯があるので期待したい。小車で創造の森づくりを経験しており、大切な自然環境をり資源の活用に力を注ぎたい。

質問 ①どぶろくづくりに生産物活用のほか、国の政策の特区許可まで研究すべきであり、行政支援の考えは。

②町内で、6次産業の実績があるが、産業定着まで更に進めるべきであり、今後の支援策は。

③チヨウザメのコラーゲン採取による医療用製品開発に取組む報道があるが、生産体制、研究など具体的な進め方は。

22年川西で牛乳チーズの製品化に町の活性化補助を活用し、道の駅、イベントへの出店、旭川・札幌などでの販売、PR活動を行うなど、良い方向だ。

チヨウザメは、30年来の取り組みで、有効活用、生産が難しい状況であったが、

質問 ①カミネツコソブン育苗での森林再生の取組みは。

②森林に親しむイベ

答 広葉樹の造林事業を推進したい
答 森林再生に住民活動、体験の機会を

近年、北大の指導でふ化が順調になり、食材、キャビアの生産も少しづつだが提供できるようになり、さらに養殖技術開発や、コラーゲン生産

技術開発に取り組みたい。化粧品、医療の原材料は価値が高く、地域づくり協力隊で人材確保に力を入れたい。

住民ボランティアでの間伐、枝打ちは高度な技術と危険が伴うので、望みの森での森林浴、函岳ウォーキングの集い、森林教育の意識高揚を図っていきたい。広葉樹は成長が遅く食害などで育てるのが大変であり、その割合は、森林全体の3%、町有林の6%程度。旧天木の山林譲渡で100haを超える町有林があり、積極的に造林事業推進を図りたい。シマフクロウは生息していた経緯があるので期待したい。小車で創造の森づくりを経験しており、大切な自然環境をり資源の活用に力を注ぎたい。

問 特区の申請、
答 人材の確保で事業展開を

6次産業に行政から力を



小口英治議員

一般質問

- ①模擬議会の取組みについて
②道の駅（双子座館）の運営について



まちづくりには多くの町民の声を

問

意見集約のための模擬議会の考え方

答 積極的な考えはない

質問 第5次総合計画の将来像を「みんなで築く輝くまち美しいと定めているが、意見集約の方法として、まちづくりの方

質問 まちづくりには多くの町民の声を、他、地域担当員も増え、町民の声、地域希望等をまちづくりに活かす考えは。

質問 心配なのは、町民の意見集約としてのアンケート調査の回収率が大変低いこと、「町長への手紙」も情報公開が不充分ではないか。

の声を拾う作業を実施している中、現時点での模擬議会を開く考えはない。

町長 過去に子供ミニ二議会、女性議会を開催したことがあるが、それほど成果があがっていない。女性参画の意味からも審議会等にも積極的に参加してほしいが、公の場に出るのを遠慮する傾向があり、それをどう突破するかが課題。



更なる充実を期待する道の駅

問

道の駅の売上増の対策は

答 陳列方法、従業員教育等更に努力

質問 道の駅びふかは、開館から20年経過し、入込客・売り上げ共に減少になっているが、これらの対策は。

質問 ほかの道の駅では、「顔の見える農産物」の販売が見られるが、施設の販売・陳列方法も検討時期に来ているのではないか。

町長 団体旅行からグリーンや個人の旅行にシフトしているが、コロッケや牛肉、まん等地場産品を利用した取組みも減少に歯止めをかけてい

質問 町長 地場産品販売の底上げと、陳列方法の改善、従業員教育に入れ環境整備にさらに努力する。

■調査日
2月13日

調査事項
1

芸術・文化活動の推進

- 調査のまとめ
①毎年多くのジャンルでの事業開催は高く評価できる。
来場者からのアンケート調査、ニーズに応えられる事業を選定すること。

- 調査内容
①文化ホール自主事業活動の現状と課題
②文化財保存事業、郷土資料室の現状と現状と課題
③図書室運営事業の現状と課題

PRは、新聞、ラジオなどマスコミ宣伝を活用し拡大していくこと。

- ②入館者が減少する中、増やす手立てに工夫が必要。文化会館20周年に向けてのリユースアルや常設

- ③展示・特別展示・移動展示などの開催のほか、未発見の文化財保存活動に一層の事業活動が必要。

③

年間、2000冊

程度予算内で購入、

リクエスト本、新刊本、専門書は、町民のニーズを把握し応えていくことが図書室の利用者増につながる。

雑誌類は町民に還元できる方法も検討しつつ、高齢者、障害を持つ方、足を運びにいきたい方にも利用しやすいような環境整備も望まれる。



有効利用が望まれる図書室

調査事項
2

農業の振興策

- 地域で話し合いプランを作り、農林水産省の支援を生かし確立していくことを期待する。

- 調査のまとめ
①人・農地プランの現状と課題
②若手・担い手の育成確保の現状と課題

- ①高齢化・後継者不足で、耕作放棄地の増加など「人・農地」の問題があり、5年後・10年後の展望が描けない地域が増えている。

国・道・町の支援事業を活かし農家戸数増加と後継者確保で、今後一層の農業継承を図ることを期待する。

レポート

芸術文化で豊かなまちづくりを

産業教育常任委員会

意見の留保、反対・賛成討論等々)に備えて、日常の会議規則の熟読に、より拍車がかり、いつも以上に緊迫感が醸し出されている。その意味では年間4回ある定例会の中で事務局が最も気を使う定例会と言える。

毎回定例会は、町民には何事もない定例会に見えると思うが、裏方はいつも冷や汗と安堵が入り混じった議会風景。猛獣珍獣?を調教することの大変さは、町民には見えるとか見えないと。4月の人事異動が発令されると胸をなでおろす職員がいるのもわかるような気がする。

そんなことなら、『議会傍聴してみようかな』と思いませんか。

毎回傍聴される方の楽しみはそこにあるような気がする。

季員会

研修事業で更なる スキルアップを

総務住民常任委員会

■調査事項
第4次美深町行政改革推進計画における職員体制と行政機構の見直しについて

■調査結果
①職員定数について
6か年で7人の減員（101人）を目指し、現状は109人、計画最終年（27年度）まで幹部職員を含む11人退職、後任となる職員のスキルアップが求められ、広く人材の確保と採用、さらに男女雇用均等法に基づく雇用も推進すべきである。地域事情を勘案し、給与体系で検討する必要もある。

■調査のまとめ
すべての職員は「全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行に当たって全力を挙げてこれに専念しなければならない」という理念がある。

大課制となつて6年経過、グローバルな研修、施策提案につながる研修となることを期待する。

議論が十分されない、意義・検証を行ない、事務事業の効率化、住民サービスの充実のため、課題解決を図るべきである。

■調査日
1月31日



職員と町民とのネットワークづくり

■調査内容
①職員定数及び給与の見直しの現状と課題及び今後の計画
②能力開発と人材の育成の現状と課題及び今後の計画

「まちづくり人材育成事業」は職員と町民とのネットワークづくりも目的のひとつで一定の効果も上がっているが、今後は参加者の企画立案による他市町村視察研修など、オリジナルな研修、施策提案につながる研修となることを期待する。

毎年3月定例会は2週間から3週間にわたって開催される。

議員控室のゆり言

それは通常の定例議会の日程中に、新年度の予算を議決する「予算特別委員会」が開催されるからである。議長を除く10人で構成され、正副委員長の互選から始まり、日程の決定、審査のための資料を求める場合の準備をする。

議会事務局は町長部局との打ち合わせ、次第書の作成に追われ、通常の定例会の倍の次第書作成作業がある。さらに、不測の事態（議事運営のトラブル、動議、修正案、一部修正案、一部予算の凍結案、少数

「**町民のみなさんと
議会との懇談会**」を開催しました。

美深町議会は、市民への議会活動報告と懇談会を年1回開催することとしています。

平成24年度は、3月21日 町内3か所で開催しました。

各会場の主な意見

仁宇布多目的ホール

- 山村留学の親子住宅、全戸整備を。住環境に格差がある。
 - 学校給食が開始されるように聞くが、アレルギー対応など安全対策は万全の体制になるのか。
 - 地域の除排雪組織に対して、助成はできないか。
 - 個別排水合併浄化槽の整備に補助はできないか。
 - スポーツ少年団活動のためにデマンドバスの運行、夜便を設けてほしい。日曜日の運行も。
 - 仁宇布小中学校につながる道道と町道の交差点に安全標識がない。交通安全対策を充実してほしい。



恩根内センタープラザ

- デマンドバスのような運行で高齢者の足の確保をしてほしい。
 - 地域の住民組織による除雪には、限界がある。町で対策を。
 - 「R & R おんねない」方式を全町展開するべきでは。
 - 街灯設置の自治会負担割合を低減してほしい。

COM100 大会議室

- 議会は、町民に対してもっと情報提供すべき。
 - 町民との懇談会を年1回ではなく、もっと開催すべき。
各自治会や小グループでの開催が良いのではないか。
 - 美深の気風として補助があるから事を始める傾向がある。
自主性の意識づくりが大事。



以上の意見をふまえて、今後の議会活動に反映していきます。

4月も終
わろうとし
ているのに、
まだまだ雪
景色のわが町。
一億円を超す除雪
費を投入しても町民
からの苦情は過去最
高とも聞く。

編集
後記

4月も終
わろうとし
ているのに、
まだまだ雪